

日本環境心理学会

第9回大会 文京学院大学

(大会責任者：畑 倫子)

2016.3.19. 10:15-17:00 (10:00 受付開始)

会場

文京学院大学ふじみ野キャンパス W209 教室

*当日は食堂があいていますが、食堂以外のお店は近くにはありません。昼食はご持参いただくか、食堂をご利用いただけますようお願い申し上げます。

*文京学院大学のオープンキャンパスと同日開催です。

参加費

会員・非会員：1000円

大学院生・学部生：500円

プログラム

10:15-12:00 口頭発表

12:00-13:15 お昼休憩 (運営委員会)

13:15-14:00 総会

14:00-15:00 ポスター発表

15:00-17:00 シンポジウム「地域と健康」

セッション 1 座長：白川真裕 (日本大学文理学部)

1. 環境配慮行動に心理的影響を及ぼすイベントの考察

富村芽久美 (東北大学大学院環境科学専攻科)・古川柳蔵 (東北大学大学院環境科学研究科)

2011年3月11日に発生した東日本大震災は多くの人々の心身に影響を及ぼした。宮城県では甚大な津波の被害から多くの犠牲者と被害が発生し、5年を経過しようとする現在でも復興は終わっていない。また、この日は県内の中学校の卒業式が行われていた。この一瞬の出来事で、多くの中学生の喜びの感情が大きな不安に変わった。その中学生が、4月になり高校生として入学したが、学校生活は楽しいものではなかった。県内の高校生は精神的に不安定であった。筆者の勤務する宮城県黒川高校でも、2011年度入学生は学習の定着が悪かった。3年間を通しての環境意識調査では、1度も仮定モデルにはならなかった。また、2011年度生以外の生徒も、2年生の9月は学校行事が多いため、仮定モデルにはならなかった。このように、生徒に影響する学校行事や災害が起きると、学習効果が環境配慮行動まで至らないことが、分析から明らかになった。

2. 消費者のエコ志向・節約志向が環境配慮行動に与える促進効果

石崎絢子 (筑波大学理工学群社会工学類)・劉雨晨 (筑波大学生命環境科学研究科環境科学専攻)・甲斐田直子 (筑波大学システム情報系)

本研究は、環境に対する消費者の多様な心理的志向について、エコ志向と節約志向に着目して情報提供による行動促進策の効果検証を行った。分析には日本国内成人男女を対象に実施したオンライン調査データ (n=1,200) を用いた。まず、環境配慮行動に対するエコ・節約志向に関する因子分析および相関分析の結果、エコ志向と節約志向は人々の意識に置いて対立せず存在し、強い正の関係にあることが明らかとなった。また、本研究で仮定した行動モデルにもとづいて共分散構造分析を行った結果、「詰め替え用購入」行動においてはエコ志向よりも節約志向の方が行動意図に強い影響を及ぼしていることが示された。さらに、情報提供による行動意図向上の有無に関するt検定分析の結果、行動意図が低い傾向を示した回答者群および受け取った情報に対していいイメージを持った回答者群については、行動意図向上が確認された。これらの結果から、斬新でよいイメージを抱く情報を提供することにより、消費者に十分浸透していない環境配慮行動が促進される可能性がある。

3. Hedonia-eudaimonia による動機付けがごみ分別行動促進に与える影響：大学生を対象とした介入実験を事例に

劉雨晨 (筑波大学生命環境科学研究科環境科学専攻)・甲斐田直子 (筑波大学システム情報系)

環境配慮行動は、環境保全意識や利他的価値観だけでなく利己的価値観や自己高揚動機によっても促進されることがこれまでの研究で指摘されている。本研究は、ごみ分別行動を促進する動機として hedonia と eudaimonia に着目した介入実験調査を行い、その促進効果を検証する。調査対象は、マレーシアにおける国立大学構内 (学部生・大学院生 200 名) とし、3 条件 (ポスター掲示による hedonia 動機刺激群, eudaimonia 動機刺激群, 刺激なし統制群) における介入前後のごみ分別成績および hedonia, eudaimonia の変化を比較する。本研究では 3 つの仮説を検証する：1) 2 刺激群におけるごみ分別成績および hedonia, eudaimonia は統制群よりも高い, 2) 2 刺激群間比較より、短期的には hedonia 刺激群において優位な行動促進効果が生じる, 3) 同様に、長期的には、eudaimonia 刺激群において優位な行動促進効果が生じる。本研究は現在実施中であり、3月上旬に分析を完了する。

4. ガーデニングは心理的健康を促進するか？－メタ解析による検証－

曾我昌史（東京大学）・Kevin J. Gaston（エクセター大学）・山浦悠一（森林総合研究所）

【目的】本研究の目的は、ガーデニング（庭・畑いじり）が持つ心理的健康の促進効果について、その有用性を、システマティックレビューおよびメタアナリシスにより検証するものである。【方法】関連する論文を文献データベースにて検索・収集した。ガーデニングが心理的健康に及ぼす影響の効果量の95%信頼区間を算出し、それらの影響の有意性を検討した。【結果】2001年以降に出版された21編の論文（22の個別研究）が研究選択の適格基準に合致した。これらの研究では、鬱・不安症状、ストレス、生活の質、主観的人生満足度、ウェルビーイング、コミュニティとの一体感など様々な尺度が用いられていた。メタ解析を行い全研究の平均効果量を算出した結果、ガーデニングは心理的健康に有意な正の影響を及ぼすことが明らかとなった。【結論】日常的な庭いじり、植物の世話、野菜作りなどの行為は、公共の健康に大きく資するだろう。

セッション2 座長：高木大資（東京大学大学院医学系研究科）

5. 商業施設内トイレの環境整備における利用満足と混雑の関係

鈴木万裕（筑波大学理工学群社会工学類）・劉雨晨（筑波大学生命環境科学研究科環境科学専攻）・甲斐田直子（筑波大学システム情報系）

近年の日本における商業施設内トイレは整備が進み、充実した快適な空間へと変化している。一方で、トイレ混雑に関わる問題は十分解消されていない。本研究は、商業施設内トイレの利用満足維持と混雑軽減を可能とするトイレ環境の提案を目的とした。本研究は、北千住駅隣接ファッションビルの女性トイレを対象とし、質問紙調査（n=200）および観察調査（n=120）により「満足度」「滞在時間」「混雑度」「混雑時の回避行動」に関するデータを収集した。質問紙調査データを用いた重回帰分析の結果、「衛生状態満足度」「居心地満足度」「混雑状況満足度」が総合満足度に正の影響を及ぼしていることが分かった。また、トイレ個数が少ないことが主な混雑発生要因であることが、質問紙調査および観察調査により示された。一方で、トイレ混雑時には半数以上の質問紙調査回答者が2階分まで移動を許容することが明らかとなった。以上の結果から、よりよいトイレ環境を提供するためには、トイレの衛生状態と居心地向上にむけた環境整備や混雑時に他階トイレへの移動を促す情報提供方策が効果的であると考えられる。

6. 幾何学図形による情動喚起を利用したターゲット検出の促進

竹島康博（文京学院大学人間学部）

我々は、通常外界からの膨大な感覚入力进行处理するために、重要な情報に対して注意を向けることを行っている。重要な情報である注意を引き付ける対象は様々あるが、その中で自分に対する脅威となりうるようなネガティブな感情を喚起するものがあげられる。このようなネガティブ刺激の効果を検討するために怒り顔や不快画像が用いられているが、同時に幾何学図形である逆三角形でも同様の効果が得られることが示唆されている。そこで、本研究では逆三角形によるネガティブ感情の喚起がターゲットの検出感度に与える影響について検討を行った。事前に逆三角形がネガティブな印象を与えることを確認した上で、マスキング下の検出感度を調べたところ、正立の三角形と比べて検出感度が有意に高くなっていた。以上の結果から、対象を視認しにくいような状況下で必要な情報を見つけてもらう上では、逆三角形という形状を利用できることが示唆される。

7. 研究を目的とした地理的プロファイリングソフトの開発と各種推定法の比較

羽生和紀（日本大学文理学部）

現在、地理的プロファイリングの研究において、犯行地点までの移動における距離減衰の仮説に基づく拠点推定の確率密度関数を重ねた確率面を作成する手法は不可欠な手段になっている。しかし、現在利用可能な確率面を扱えるソフトは捜査支援実務のために設計されたものであり、研究のためのものではない。そのため、研究目的に合わせたパラメータ変更の自由度が限られており、また必要な結果の出力が得られないこともある。そこで、研究を目的として、距離減衰仮説に基づく確率面の推定を含む、各種推定法が利用可能な地理的プロファイリングツールを開発した。このソフトを用いて、仮説に基づき人工的に生成した犯行地点をもちいたシミュレーションの結果は、中央値を用いた推定の精度の高さを示した。これは、中央値の、極端なデータの影響を受けにくく、残りの大多数の代表値をよく反映する性質によるものである。

1. 自由記述調査を用いた東京湾のイメージ構造の把握：海のイメージとの比較を通して

杉野弘明（東京大学海洋アライアンス）・八木信行（東京大学大学院農学生命科学研究科）

海に囲まれた日本における沿岸域は、優れた景観や豊かな生態系が形成されるなど、人間にとって貴重な環境である。中でも東京湾は大都市に接する海域環境として長い歴史を持つ。一方で、東京湾は閉鎖性湾であることにも起因して水質悪化等の公害問題が大きな障壁として存在し続けてきた現場でもあり、それらの解決のため、環境改善活動や自然科学的研究が多く行われてきている。しかし、例えば開発に伴う地元住民との合意形成等、社会科学的アプローチが必要となる問題に対しては、まず東京湾や東京湾沿岸域における水辺空間が近隣住民の生活に密接に関係した環境の一部であることを考慮し、沿岸域住民や利用者が東京湾に対してどのような意識を抱いており、それがどのような特徴を有しているのかを明らかにする必要がある。そこで本研究では、自由記述式アンケート調査結果の解析を通して得られた、東京湾のイメージを明らかにすることを目的とする。

2. 福島県逢瀬町グリーンツーリズムへの参加による被災地イメージの変容

富永恵莉（文京学院大学人間学部）・文野洋（文京学院大学人間学部）

本研究は、グリーンツーリズムへの参加が被災地イメージの変容に与える効果を検討することが目的である。2011年3月11日の東日本大震災による福島第一原子力発電所事故によって風評被害が発生した福島県逢瀬町において開催された「福島県逢瀬町グリーンツーリズム」に参加し、フィールド調査を行った。ツアー前後に質問紙を実施し、初めてのツアー参加者を対象にインタビューを行った。質問紙調査において、ツアー参加前後で福島県および逢瀬町のイメージ（形容詞対の評定）がどのように変化したかを検討した結果、福島県と逢瀬町どちらにおいても肯定的な方向へイメージの変化が見られた。また、福島県に比べ逢瀬町の方がより大きな変化が見られた。本報告では、これらの変化と、ツアー参加前の被災地に関する知識との関連についても報告する。

3. 心理面接室環境の実態に関する研究—臨床心理士を対象とした予備的検討—

白川真裕（日本大学文理学部）・津川律子（日本大学文理学部）・羽生和紀（日本大学文理学部）

不安や悩みを抱えたクライアントが訪れる心理面接室において、室内環境のデザインが重要な役割を担うと考えられているが、心理面接室環境に関する研究は十分に蓄積されていない。そのため、心理面接室の環境の現状を把握し、心理臨床活動にふさわしい施設環境を明らかにすることを目的として、臨床心理士およびクライアントを対象に調査を実施することとした。本研究ではその前段階として、臨床心理士を対象に勤務先の心理面接室環境についてのインタビュー調査を行い、面接室の数や利用者数、面接室に設置された物品とその配置、面接室環境に関する要望や工夫していることなどについてたずねた。その結果、特に音環境を重視していること、これまで良いとされてきた90度の椅子の配置が適さないケースが多いことなどが報告された。また、多くの面接室は既設の部屋を転用し工夫しながら使用されており、専用の面接室がない場合、あるいは不足している場合に他の部屋を使用しているケースが多く存在することも明らかになった。

4. 床の色の異なる教室が授業意欲に与える影響

君塚寛樹（文京学院大学人間学部）・畑倫子（文京学院大学人間学部）

人々は毎日様々な色を見ている。その中で、学生が日常生活において毎日接している教室の床の色に着目し、色が授業意欲に影響を及ぼすのかどうかを検討した。一般的に使われていると考えられる黒と白の他に、あまり使われていないと考えられる赤色・青色・黄色の3色を加えた計5色を教室の床として実際の教室の写真画像を加工し、74人(男性27人、女性47人)の大学生に提示した。各色の教室で授業を受けるものとし、「出席したくなるだろう」「集中できるだろう」「眠くなるだろう」の3つの質問を授業意欲として「はい」「いいえ」の2択で回答してもらい、分析を行った。

5. 専門性の確立と職場経験値が、専門職従事者の職場環境認知に及ぼす影響

森裕樹（新潟医療福祉カレッジ）・蕪木太加彦（新潟医療福祉カレッジ）・山田允宣（新潟医療福祉カレッジ）

介護職者の人材雇用や安定確保など職場環境の改善は、現在の超高齢化社会における喫緊の課題である。専門職従事者のうち介護職者を取り上げた研究では、専門性に対する自信と彼らの職場経験とが相互に関与しあいながら、自身の職場環境に対する評価につながることを示唆された（堀田ら、2009）。坂井ら（2015）はまた、この点を踏まえつつ、入社後の継続的な研修機会の提供や職場環境改善・充実の有効性を示唆している。そこで本研究では、介護職者の専門性と職場環境に着目し、16名の中堅管理職者を対象にインタビュー調査を実施した。その結果、彼ら自身の仕事への有能感と、職場環境改善に関する裁量の程度とが一致している者ほど、所属の職場に対する好意的な評価につながりやすいことが分かった。その一方で、職場環境に不満を持つ者は、自身の仕事に対する専門性向上に目を向けやすいことが示唆された。

6. 将来展望が学習動機づけに及ぼす影響

松原亜友美（文京学院大学人間学部）・永久ひさ子（文京学院大学人間学部）

本研究では、将来展望が学習動機づけに及ぼす影響について検討するため、将来展望がどの程度の具体性と魅力を持っているのかの個人差を測定する。そして、将来展望の魅力度と具体性が学習動機づけに与える影響について検討する。調査対象者は大学生とし、質問紙調査を行った。その結果、将来展望の魅力度と具体性は学習動機づけを高めることがわかった。また、調査対象者を将来展望の魅力度と将来展望の具体性の平均値によって、高群と低群に分け、それらの組み合わせにより4タイプの将来展望に分類した。将来展望のタイプによる学習動機づけの違いを検討したところ、学習動機づけは将来展望のタイプによって異なることがわかった。これらのことから、自身にとって魅力的かつ具体的な将来展望をもつことで、学習動機づけは高められることがわかった。学生は魅力的な将来展望や具体的な道筋を考える機会を与えられることで、学習動機づけが高まるといえる。

7. 屋外歩行中のリスク行動の観察調査

島田貴仁（科学警察研究所犯罪行動科学部）

歩行時のイヤホン装着や携帯電話での通話、スマートフォンの注視は、交通事故や犯罪被害の危険性を高めると考えられるが、その実態は十分に明らかになっていない。このため、京都市内の地下鉄駅近傍の4か所を選定して、夜間22時から1時までの単独歩行者の観察調査を実施した。単独歩行者（ $n=367$ ）のうち男性の15%、女性の29%がスマートフォン画面を注視しており、男性の7.3%、女性の5.4%が携帯電話の通話機能を使用していた。観察地点や時間帯による差異を統制したロジスティック回帰分析の結果、女性は男性よりも歩行中のスマートフォン画面の注視が顕著であることが示された。既存の社会調査や犯罪被害実態調査の結果も踏まえて考察する。

8. 音楽が運転時の危険察知に及ぼす影響

高橋優太（文京学院大学人間学部）・畑倫子（文京学院大学人間学部）

環境からの刺激により攪乱しやすいとされるノンスクリーナーは、音楽によって集中力が影響を受けやすいのではないかという仮説をもとに、車の運転時に聴く音楽の有無とその種類によって、危険察知能力にどのような影響があるのかを検証することを目的とした。実験参加者を無音群・アップテンポ群・スローテンポ群の3群に分けて音楽を聴かせながら、危険予知トレーニングシートを記入してもらった。その後、スクリーナー尺度日本語版（大谷、2011）を用いて実験参加者をスクリーナーとノンスクリーナーに分け、分析を行った。その結果、ノンスクリーナーの方が、スローテンポ音楽・アップテンポ音楽ともに危険察知能力が低く、環境刺激に耐えられるとされるスクリーナーの方が、音楽視聴時の危険察知能力が高いということが明らかになった。

シンポジウム「地域と健康」

企画・進行

畑倫子（文京学院大学 人間学部 心理学科）

居住地周辺緑量の数値地図を利用した分析

芝田征司（相模女子大学 人間社会学部 人間心理学科） （発表 20 分，質疑応答 5 分）

最近行った調査では，自然との心理的つながりの強さと居住地周辺の自然の多さとの関係について検討するために，回答者の郵便番号をジオコーディングし，それによって得られた地図座標と国土地理院発行の数値地図とを組み合わせ，各対象者の居住地周辺緑量を算出するという方法を用いました。地理的・空間的情報の利用は，他の分野・領域で近年盛んに行われるようになってきています。日本心理学会でも数年前に地理情報システム（GIS）の利用についてのシンポジウムが開催されましたが，心理学領域ではこうしたシステムの利用はまだまだメジャーではないようです。そこで，今回は，心理学研究における使用例の1つとして，拙研究の場合を紹介したいと思います。

高齢者の閉じこもり：地域における出現率の比較，うつ傾向との関連

山崎幸子（文京学院大学 人間学部 心理学科） （発表 20 分，質疑応答 5 分）

自治体の協力の下，地域を限定し郵送調査，留置調査によって調査した結果から，高齢者の閉じこもりについて言及します。具体的には，東京都荒川区，秋田県にかほ市，福島県大玉村で実施した調査結果を元に，都心と農村地域においてその環境が閉じこもりの出現率に差があるかどうか，地域性に言及しながらその差異についてデータから読み取れる点について検討します。あわせて，各地域における閉じこもりとうつとの関連について，違いが認められるか，地域性の影響の可否についても言及したいと思います。

（休憩 10 分）

地域研究における「場所」と「空間」の問題

高木大資（東京大学大学院 医学系研究科） （発表 30 分）

お二人のお話を踏まえて，研究手法についてのさらなる深掘りを試みます。まず地域研究における生態学的誤謬の観点から，生態学的分析とマルチレベルモデルの話をしていきます。次いで，地域のマルチレベルモデルにおける集計単位問題（MAUP）を取り上げ，そこから空間分析の話に展開します。各分析の説明では，私が以前に行った，犯罪被害，健康，心理社会的変数（集合的効力感や近隣での協力的行動）などをアウトカムにしたいいくつかの実証研究を紹介しながら議論を進めたいと思います。これらの議論を通じて，「心理学でも場所や空間を考慮した分析が利用可能である」ということと，「地域における心理学研究なら，むしろ場所や空間を考慮したほうがよい」というメッセージをお伝えできればと思います。

全体討議

フロアとのディスカッション

文京学院大学ふじみ野キャンパスへのアクセス

〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保 1196

<http://www.u-bunkyo.ac.jp/about/page/campus.html>, <http://info.bgu.ac.jp/access/>

- 「ふじみ野」駅西口よりスクールバス 7分または東武バスで 9分
- 東武東上線「ふじみ野」駅

東京メトロ有楽町線・副都心線乗り入れ，急行停車，池袋より約 25分



- スクールバス

3月19日(土)オープンキャンパス

ふじみ野駅発		大学発
25,35,45,50,55	8	15,25,35,40,45,50
00,10,20,40	9	00,10,30,50
00,20,40	10	10,30,50
00,10,20,30,35,40 45,50,55	11	00,10,20,25,30,35 40,45,50,55
00,05,10,15,20,30 40,50	12	00,05,10,20,30,40 50,
00,10,20,30,40,50	13	00,10,20,30,40,50
00,10,20,30,40,50	14	00,10,20,30,40,50
00,10,20,30,40,50	15	00,10,20,30,40,50
00,10,20,30,40,50	16	00,10,20,30,40,50
00,20,35,50	17	10,25,40,55
05,20	18	10,

- 東武バス

大井循環〈文京学院大学経由〉「文京学院大学前」下車

ふじみ野駅西口

行先 大井循環

時	平日	時	土曜	時	日曜・祝日
5		5		5	
6	08 21 32 43 55	6	20 40 56	6	20 40 56
7	03 07 20 30 34 37 48	7	11 30 45	7	11 30 45
8	02 05 13 20 35 50	8	04 15 20 30 45	8	04 15 20 30 45
9	福 03 15 32 46	9	05 25 45	9	05 25 45
10	01 10 20 福 30 45	10	福 02 15 32 53	10	福 02 15 32 53
11	00 23 40	11	10 30 52	11	10 30 52
12	01 20 40	12	09 30 40 54	12	09 30 40 54
13	00 23 40	13	18 32 52	13	18 32 52
14	00 20 40	14	10 31 52	14	10 31 52
15	00 23 40 54	15	10 32 52	15	10 32 52
16	08 32 49	16	10 32 52	16	10 32 52
17	05 17 32 46	17	10 25 38 55	17	10 25 38 55